

抜 粋

町職員の給与や職員数、勤務条件などの人事行政の運営等の状況について「地方公務員法」「神石高原町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例」に基づき公表するものです。

1 職員の任免及び職員数に関する状況

- 職員数 187名 (平成22年4月1日現在 3役を含まない)
- 職員の採用 1名 (平成22年4月1日採用)
- 職員の退職 11名 (うち勤奨退職5名) (平成21年4月1日～平成22年3月31日退職)

2 職員の給与の状況

(1) 職員の平均年齢、平均給料月額及び平均給与月額の状況 (平成22年4月1日現在)

区 分	平均年齢	平均給料月額	平均給与月額
一般行政職	43.3歳	332,400円	371,800円
技能労務職	52.3歳	352,500円	372,200円

注) 1 「平均給料月額」とは、平成22年4月1日現在における職種ごとの職員の基本給の平均である。
2 「平均給与月額」とは、給料月額と毎月支払われる扶養手当、住居手当、時間外勤務手当などの全ての諸手当の額を合計したものである。

(2) 給料の減額措置

対象者	内 容	期 間
町長・副町長・教育長	期末手当を10%減額	平成22年4月1日～平成23年3月31日

(3) 期末手当、勤勉手当、退職手当の状況 (平成22年4月1日現在)

区 分	内 容	支 払 額
期末・勤勉手当	期末手当 2.75月 勤勉手当 1.4月	1人当たり平均支給額 (21年度) 1,476千円
退職手当	勤続25年の場合 自己都合 33.5月分 勤奨退職 41.34月分	1人当たり平均支給額 25,480千円

注) 1 退職手当の1人当たり平均支給額は、平成21年度に退職した職員に支給された平均額である。

(4) 特別職の報酬等の状況 (平成22年4月1日)

区 分	給料/報酬月額	期末手当 () は減額措置前の額	退職手当
町 長	742,000円	2,342,309円 (2,602,565円)	(算定方式) 給料月額×在職年数×乗率 乗率 町長 5.0 副町長 3.0
副 町 長	651,000円	2,055,044円 (2,283,382円)	
教 育 長	606,000円	1,912,991円 (2,125,545円)	
議 長	300,000円	1,035,000円 (1,069,500円)	
副 議 長	245,000円	845,250円 (873,425円)	
常任委員長	235,000円	810,750円 (837,775円)	
議 員	225,000円	776,250円 (802,125円)	

(5) 初任給の状況 (平成22年4月1日現在)

区 分	神石高原町	国
一般行政職	大 学 卒	172,200円
	高 校 卒	140,100円

※「人事行政の運営等の状況」については、町ホームページ (<http://www.jinsekigun.jp/>) に詳細を掲載しますのでご覧ください。

第12回 神石高原町 夢創造委員会開催!

提言書 「世界に羽ばたく神石高原町」

「オンラインワンのまちをめざして」を提出

12月14日(火)、12回目の夢創造委員会が開催されました。「20年後の神石高原町」の実現のためのプロジェクトを盛り込んだ提言書が、赤木委員長から牧野町長に提出されました。過疎化、少子高齢化に歯止めをかけ、人口増につなげるための5つの夢創造プロジェクトが提言されました。

夢創造プロジェクトは次の5つです。

「100歳万歳プロジェクト」

～高齢者が、健康で生きがいを感じ、自立できるよう、サポートする仕組みづくり～

「自然エネルギー活用・定住促進プロジェクト」

～エネルギーの自給自足と美しいまちづくりによる定住の促進～

「生命への敬意を育む教育・交流プロジェクト」

～神石高原の特性を活かした教育の創造と交流～

「世界に誇る医療拠点創造プロジェクト」

～神石高原の特性を活かした医療拠点の創造と世界への飛躍～

「神石高原ブランド育成・6次産業化プロジェクト」

～自立した産業の確立～



赤木委員長(左)から牧野町長(右)へ提言書が渡されました

「教養のまち—神石高原町」

読書感想文紹介

小学生の部、最優秀賞に輝いたもう1作品を紹介します。

「おこだでませんようにを読んで」

来見小学校4年 藤井 智弥君

ぼくは、初めて、この本をみつけた時に、「おこだでませんように」という題名を見て何のことか、意味がわかりませんでした。どういう意味かなと思って読みたくなりました。

おこだでませんようにというのは、おこられませんかという意味でした。

主人公の男の子は、いつもおこられていました。家でも学校でもおこられていました。

お母ちゃんが、仕事で帰りがおそい時にかぎって妹が、わがままを言います。男の子が、妹をしかると、妹は、母ちゃんが帰ってくるまで、大泣きをする。母ちゃんは、かならず男の子をしかります。

ぼくは、男の子が耳せんしたかったと思いました。男の子は、学校でもおこられます。意地悪されて仕返ししたのに、おこられたのは男の子だけでした。

ぼくは、不公平だと思いました。男の子は、本当は、ほめられたいようです。男の子は、ねていても、おこられるゆめを見るようです。ぼくは、そんなゆめは、しゅうせいえきで消したいです。

男の子は、たなばたさまの願いをたんざくに書きます。一番の願いを書きました。その願いは、「おこだでませんように」

と書きました。本当は、おこられませんかようにと書こうと思ったのです。でも、字を間ちがえてしまったのです。

ぼくは、男の子が先生におこられるのかと思いました。男の子がかわいそうだと思いました。

ぼくは、ドキドキしながら、次のページをめくりました。男の子が、書き終わったときは、最後でした。男の子は、先生に、書いたたんざくを、わたしました。

男の子は、あーあ、またおこられると思いました。先生は、じつとたんざくを見ました。

ぼくは、おこられるぞと思いました。ところが、先生は、泣きました。

ぼくは、先生が泣いたので、びっくりしました。先生は、男の子に

「先生……、おこってばかりやったんやね。…ごめんね。よう書いたねえ。ほんまに、ええお願いやねえ。」とほめました。

男の子は、おどろきました。ぼくは、少し、もらい泣きをしました。もらい泣きをしたわけは、先生が泣いていたからです。先生は、男の子の気持ちが、初めてわかったから、泣いたと思います。

ぼくは、男の子に、

「願いがかなってよかったね。」と言ってあげたいです。